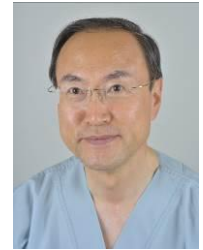


## 「CASOS 21 の会」ライブサージャリーに参加して



蘇春堂形成外科 野平 久仁彦

この度ライブサージャリーを担当させていただきました蘇春堂形成外科の野平です。私自身がライブサージャリーを行うのは今回で3回目です。

1回目は7年前に当科で日本美容外科学会総会を主催したときに当院からライブサージャリーを市内のホテル会場に中継しましたが、美容外科学会でライブサージャリーを行ったのはそのときが初めてで、それ以降まだ誰も行っていません。それだけハードルが高いと言えます。普段手が震えない私も、そのときはさすがに武者震いが出ました。

2回目は3年前にシンガポールの General Hospital で3日連続で行ったもので、アウェーで行う難しさを経験しました。

今回は自分の手術室でしかも24名という少人数?でしたので、とてもリラックスしてできました。術者にあまりプレッシャーをかけないで見ていただき、ありがとうございました。



午前中、大橋眼科で宮田先生の手術を見せていただきましたが、かなりのインパクトを覚えました。出力の高いCO<sub>2</sub>レーザーで「さっと」切る腕はみごとで、確かに出血ないので術野がとてもドライで驚きました。

Müller tuckの方法を見るのも初めてでしたが、われわれ形成外科医は信州大学の松尾先生の理論に少なからず影響を受けており、松尾理論のりっぱな反証を見て二重に驚きました。松尾呪縛が取れた気持ちです。

私の眼瞼下垂症手術は今の方法になってからやっと3000例を越えたばかりですが、もっともっと良い方法を開発しなければならないことを痛感しました。

幸い宮田先生は大橋先生の病院に時々出張に来られるようですので、今後も手術見学させていただき自分の手術の改善につなげたいと思っています。



われわれは眼瞼下垂症手術を形成外科とくに美容外科的な観点から見ていますので、最終的な仕上げは上眼瞼形成術であると考えています。とくに眼科で手術されて結果に不満足でいらっしゃる患者さんを数多く見っていますが、そのほとんどの理由は皮膚の処置が適切になされていない事です。とくに重瞼幅が不整である例が多いと思います。

眼科では開瞼がよくなることに主眼があるようですが、それと同時に適切な上眼瞼形成術を行わなければ患者さんは満足してくれません。美容外科的な視点がないことが、眼科で行う眼瞼下垂症手術の大きな課題であると思います。



最後になりましたが、このような機会を与えてくださった「CAOS 21の会」事務局の細川保様をはじめスタッフの皆さん、宮田先生、会長の大橋先生、そして今回このようなご縁でお話させていただいた多くの眼科の先生方に深く感謝いたします。